



日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

北前船が栄えた時代、直江津は「^{いままち}今町」と呼ばれ、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。北前船が寄港したことによってさまざまな^{なりわい}生業が生まれ、直江津のまちは大いににぎわいました。

詳しくは



直江津・高田の祇園祭の御旅所行事と屋台巡行（新潟県無形民俗文化財）

毎年、7月23日から29日までの間に開催される「上越まつり」の基盤となる祇園祭は、北前船によって生み出されたさまざまな生業の町衆によって支えられた八坂神社の祭礼です。歴代国司の崇敬も篤い八坂神社の祭祀で、平安時代から続く、^か国家^{うんちやうきやう}安全・家運長久を願う祈願祭です。

慶長19年（1614年）、松平忠輝公は高田に城を築くに当たって、城下町を整備するために直江津から町民、侍、寺社を高田へ移住させました。八坂神社も高田へ移るよう命じられましたが、直江津が廃れることを案じた八坂神社は直江津に残ることを願い出て、留まったと伝えられています。

一方、高田に移った人々は、祇園祭を高田でも行ってほしいと熱望し、藩の命令によって祇園祭を高田まで出向いて行うことになり、以降、御輿が直江津から高田へ出張して高田のまちを巡幸し、再び直江津に戻るといった独特の祭祀の形態となりました。



八坂の神様を御輿に移して、高田地区へ御輿が出張します。高田地区での祇園祭を終えると、舟で関川を下って直江津地区へ戻ります。



高田からかえってくる御輿をお迎えするため、直江津18町内の屋台が荒川橋のたもとに集まります。

※掲載写真：(公社)上越観光コンベンション協会提供

広報対話課から

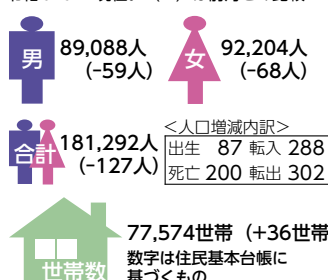
(☎025-526-5111)

「広報上越8月号」は、7月23日㊤・24日㊤に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市ホームページアドレス <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>
R70 (古紙パルプ配合率70%再生紙を使用)

上越市の人口・世帯数

令和6.6.1現在。()は前月との比較



表紙のことは：大きく羽ばたけ コウノトリ

5月初めに、吉川区で国の特別天然記念物であるコウノトリの卵がふ化しました。4羽のひなに餌を届けるために周辺の田んぼへ行き、繰り返し餌を探してくる親鳥の姿を見て、ひなへの愛情を感じました。

コウノトリは卵がふ化してから約2カ月で巣立つといわれており、7月上旬には成長したひなが飛び立つかもしれません。ひなが無事に巣立つことができるよう、皆さんで静かに見守りましょう。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。